

「PPAR^{デルタ}δアゴニスト」をベースにした新たな動脈硬化症治療薬
開発のため、海外ベンチャー企業とライセンス契約を締結

(HDLコレステロールを増加させ、血管内壁に蓄積する過剰なコレステロールの除去を促進させる作用を有する化合物の研究)

日本ケミファ株式会社(社長:山口 一城)は、日本ケミファが開発中の動脈硬化症治療薬として期待される「PPAR(ペルオキシゾーム増殖因子活性化レセプター)δアゴニスト(増殖作用薬)」をベースにした新しい低分子化合物での新薬開発を目指しています。

8月30日、日本ケミファは「PPARδアゴニスト」を欧米における開発ベンチャーであるセレニス セラピューティクス社(本社:フランス、臨床開発拠点:米国、CEO兼President:Jean-Louis Dasseux)とライセンス契約を締結したことを発表した。

<契約の概要>

1. 日本ケミファが創製した「PPARδアゴニスト」化合物群をベースとして動脈硬化症治療薬候補の最適化合物を選択し、開発する権利を日本を含むアジア地域以外に対してセレニス セラピューティクス社へ独占的に供与する。
2. 全世界(日本を含むアジアを除く)での開発、販売実施権及び再実施権を供与する。
3. 本契約時から上市迄の開発の進捗に応じて最大30百万ドル相当のマイルストーンを同社は日本ケミファに支払う。
4. 上市後には売上に応じたロイヤリティを同社は日本ケミファに支払う
5. 日本を含むアジアにおける開発・販売権は日本ケミファが留保する。

<「PPARδアゴニスト」をベースとした動脈硬化症治療薬の期待効果>

心血管系疾患治療に対するHDLをベースとした治療法の検討は、今日、最も注目される研究領域の一つであり、HDLコレステロールなどの脂質を制御する可能性を持つ治療法の開発において、「PPARδアゴニスト」が重要な役割を果たすといわれています。

HDLは動脈壁などに蓄積されたコレステロールや他の脂質を除去するために、これらの脂質を肝臓へ輸送するという極めて重要な役割を果たしています。

「PPARδアゴニスト」はHDLが役割を果たす最初の段階で、血管内に蓄積したコレステロールなどを除去する働きを増強する作用があるといわれており、新たな動脈硬化症治療薬として期待されています。

<新薬開発に対する日本ケミファの基本的考え方>

日本ケミファは先に発表した中期経営計画の通り、研究開発計画では探索研究に資源を集中投資し、蓄積された創薬ノウハウを生かした医薬品候補化合物の創製に注力し、早期開発段階で積極的に海外企業への導出を図る考えです。日本ケミファは、導出先での迅速な化合物評価や開発によって、結果的に新薬開発スピードを上げることができると考えております。

こうしたベンチャー型研究開発体制を基本に世界で通用する新薬の開発を目指して、8月10日に発表した「NC-2300」に次いで、第二弾として「PPARδアゴニスト」を海外企業へ導出致しました。

今後も医薬品候補の有力化合物の探索に注力し、積極的に海外企業へ早期導出していきたいと考えております。

<セレニス セラピューティクス社の紹介>

社名はCerenis Therapeutics SA、基礎研究の拠点はフランスのトゥールーズにあり、臨床開発拠点は米国のアン・アーバーにあります。設立は2005年3月24日で、同社はHDLをベースとした治療法に着目しており、CEO兼PresidentのJean-Louis Dasseux氏はEsperion社(現Pfizer)においてもHDLをベースとした治療薬の開発を行っていました。

本件に関するお問い合わせは下記へお願い致します。

問い合わせ先：日本ケミファ株式会社 広報室

電 話：03-3863-1211